



小杉紗代さん
本木
鶴川小5年

あまり植えられなかったけど楽しかったです



石井明希さん
瑞穂
鶴川小5年

緊張したけど楽しかったです



中野友貴さん
柿生
鶴川小5年

いい体験ができました



杉原悠美奈さん
瑞穂
鶴川小6年

とても緊張しました



杉原麻美奈さん
瑞穂
鶴川小6年

普段できない体験ができてよかった

写真右：御田植えの前に献穀田が清められる

写真下：耕作長の向平 巧さんから早乙女にコシヒカリの早苗が手渡される



大勢の人に見守られ、丁寧に御田植えをする早乙女たち



献穀者 向平茂雄さん

「名誉ある献穀者に選ばれたことを大変光栄に思います。今後、この献穀田を精魂込めて大切に管理し、抜穂式ではみなさんと一緒に実りの秋をお祝いしたいと思っています」



御田植えを見守る献穀者の向平茂雄さん（写真右から2人目）と耕作長の向平 巧さん（写真右）

新嘗祭 献穀齋田御田植祭

能都地区では昭和53年以来28年ぶり

皇居において毎年11月23日に行われる宮中行事新嘗祭にお供えするたのめ米を作る献穀齋田御田植祭が、5月10日に行われました。今年献穀者に選ばれたのは瑞穂の向平茂雄さん（70歳）の水田で、5人の早乙女たちが丁寧に苗を植えました。能都地区では、昭和53年以来28年ぶりのことです。

新嘗祭は、天皇が新米を天地の神に供え、収穫に感謝しながら食する祭事で、現在のように毎年行われるようになったのは西暦480年ごろといわれています。全国の知事からの請願により、明治25年から各県で生産された米で実施されています。全国の自治体から推薦を受けた献穀者が行事に使う新米を宮中に納めます。

石川県では例年、加賀と能登からそれぞれ一農家が新米5合（約0.9斗）を献納しており、今年は向平茂雄さんと能美市の前田俊昭さんの二人の水田が選ばれました。

御田植祭には、谷本正憲県知事をはじめ、持木町長、大谷内議長、地区代表の方など約100人が出席しました。持木町長は「瑞穂の地でとれる新米が献上されることは、町にとっても大変光栄なことです。精魂込めて管理し大役を果たしてください」と式辞を述べました。

神事は、齋主を務める高山宮司により厳粛に行われました。御田植えの儀では、高山宮司から献穀者の向平茂雄さんにコシヒカリの早苗が手渡され、水田に

移動したあと、耕作長の向平巧さんから縦姿に赤いタスキを掛けた早乙女へと早苗が手渡されました。

今回、早乙女に選ばれたのは、小杉紗代さん、石井明希さん、中野友貴さん、杉原悠美奈さん、杉原麻美奈さんの地元小学生5人です。苗を手渡された早乙女たちは、関係者や地域の人が見守る中、横一列に並んで、後ずさりしながらコシヒカリの苗を丁寧に手植えました。

この後、向平茂雄さんをはじめ耕作長の向平巧さん、早乙女代表の杉原麻美奈さんや関係者が祭殿に玉ぐしを捧げ、豊作を祈願しました。

谷本県知事からは「豊かな実りの秋を迎えて、天皇皇后両陛下にご報告いただきたい」と祝辞が贈られました。

この日植えられた苗が秋に実ると「抜穂式」を行い収穫をします。10月下旬には、石川県の新米として向平茂雄さん自身が皇居に持参することになります。



医療ソーシャルワーカーが親身になってご相談に応じます

退院後の生活が心配・・・医療制度がわからない・・・など
医療に関するご相談にお応えします。

公立宇出津総合病院に 医療サービス推進室 ができました

平成18年4月から、公立宇出津総合病院待合ロビーに医療サービス推進室を設置しました。医療サービス推進室には、医療ソーシャルワーカー（MSW）、保健師、診療情報管理士、訪問看護師が在席しています。医療サービス推進室では、次のようなサービスを行います。

〈医療相談〉
病気や障害によって生じる生活上の相談ごとに応じ、医療制度など社会資源の利用、入院退院に関する支援、医療費、介護保険のご相談に応じます。

〈保健・栄養相談、リハビリ相談〉
療養上の生活指導、食事療法、リハビリ指導など、必要に応じて院内の薬剤師、管理栄養士、

理学療法士、作業療法士などと連携し、支援いたします。

〈訪問看護〉
在宅で療養されている方で、通院困難な方に対し、お宅に訪問し、生活、療養上の支援を行います。

〈患者相談窓口〉
入院、通院を含め、診療上の心配事や、疑問に対するご相談、ご意見の受付を承ります。ささいなことでも、お気軽にお話ください。

〈ご利用について〉
公立宇出津総合病院1階、医療サービス推進室に、ご連絡ご来室ください。
☎ 62-1311

〈相談受付日時〉
病院の診療日には、対応しています。
月～金曜日（祝祭日は除く）
午前9時～午後4時30分
病棟、外来の医師や看護師にもお気軽にご相談ください。

※ご相談についての秘密は厳守します。
※医療相談は、無料です。

「ふれあい看護体験」

～看護の心をみんなの心に～

思いました。
・看護の大変さや楽しさを知ることができました。将来、看護や介護の仕事について、患者さんを元気にしたいです。
・今日の体験で看護師になりたいという気持ちが強くなった。
・近い将来、自分もこういう環境で日々を送れたらいいなあと思いました。とても良い経験になりました。



高齢化社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、広く国民が分かち合うことが必要です。このことを、老若男女を問わず誰でも認識するきっかけとなるように、毎年5月12日は「看護の日」に制定されています。また、12日を含む日曜日から土曜日は「看護週間」です。
今年で16年目を迎える「看護週間」にちなんで、県内では公立宇出津総合病院を含む38カ所の病院で「ふれあい看護体験」が実施されました。

〈実施日〉 5月16日
〈場所〉 公立宇出津総合病院 各病棟（3F～5F）

〈参加者〉
小浦 早織（能都北辰高等学校3年）
秋本かおる（能都北辰高等学校3年）
蛸島 宏章（能都北辰高等学校3年）
杉野 智子（珠洲実業高等学校3年）
小田 千恵（珠洲実業高等学校3年）
〈参加者の感想（抜粋）〉
・自分が思っていたより看護の仕事には体力を使うんだなあと

地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援します。

能登町地域包括支援センター

地域包括支援センターは、高齢者の生活を支える総合機関として、また介護予防の拠点として、4月から新たに設置されました。

高齢者が、住み慣れた能登町で、自分らしい生活を送るため、介護保険、介護予防サービスをはじめ、保健・福祉・医療・権利擁護など、さまざまな支援を包括的・継続的に提供していきます。

支援が必要な高齢者・ご家族のために、介護保険や福祉サービスのこと、生活上での心配など、あらゆる相談を受けます。地域包括支援センターの運営にあたっては、公正・中立の確保のために、被保険者や利用者の代表、事業者などが定期的に協議をする「地域包括支援センター運営協議会」を設置し、適切な運営を確認します。

高齢者の生活を支えるための、専門職種・各関係者・地域住民とのネットワーク（つながり）を築きます。お気軽に下記へご相談ください。

センターの役割

保健師
保健師が、地域の高齢者の状態を把握し、介護予防を推進します。介護予防のプログラムを作成したり、栄養士やほかの専門職と連携して、介護予防のための教室を開催したりします。

社会福祉士
社会福祉士が、介護保険のサービスを含む、高齢者や家族に対する総合的な相談や支援を行います。また高齢者の虐待防止と権利擁護の活動をします。

ケアマネジャー
主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）が、地域のケアマネジャーと連携を取り、長期継続的なマネジメント（支援）を進めます。

【相談窓口】

能登町地域包括支援センター	長寿介護課内（役場内浦庁舎）	☎ 72-2513
〃	能都支所 藤波デイサービスセンター内	☎ 62-3666
〃	柳田支所 多花楽会内	☎ 76-0980
〃	内浦支所 第二長寿園内	☎ 72-8885

※役場サービス課でも相談の受付を行っています。
能都総合サービス課 ☎ 62-8500 柳田総合サービス課 ☎ 76-8300

わたしたちが支援します。





今回は
うみとさかなの科学館に
行ってまいりました！



うみとさかなの
オアシスシアター

お隣の水産総合センターと協力して開かれている「海と魚の子ども科学教室」では魚を解剖して年齢を調べたりするんだって。それから科学館自慢のオアシスシアターでは、未来からやってきたノット船長と機関士スコンバーが登場して、海の宝物について教えてくれるよ！

この科学館は外観は船を入口までの通路はタラップを、そして館内は海底をイメージして作られているんだよ。ここでは海の不思議や魚の生態などについて楽しく学ぶことができるんだ。ボクたちが1年間でどれくらい魚を食べるのか、漁師さんの魚の捕り方や、魚の目から見た景色などが分かるよ！ほかにマグロなどの泳ぐスピードに自転車こぎで挑戦するコーナーもあっておもしろいよ！

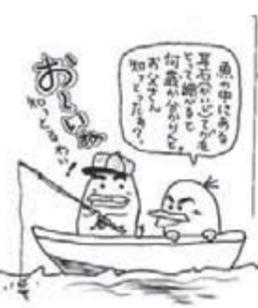


ぎょっ！

毎月メニューが変わる工作教室もオススメだよ！海にちなんだ色んな工作が無料で体験できるんだ。「イカとつくり作り」は予約がいるから科学館の人に聞いてね。館内ではもつすぐミンククジラの骨も展示されるようにしてるんだって。楽しみだね！



うみとさかなの
つくれちゃう工作



ボクも貝がらを使った展覧会、ふくりに参加したことがあって、その時の材料で、これもいい色合いの展覧会ができたよ！(中学生以上)以下の方は、お母さんやお父さんと一緒に来てくださいね。お母さんやお父さんと一緒に来てくださいね。お母さんやお父さんと一緒に来てくださいね。

能登町 いいところ めぐり

Vol.13



ガッコ(8)

- 開館時間 火～日曜日 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日 年末年始 (月曜日が休日の場合は開館)
- 住所 宇出津新港 3-7
- 入館料 大人：200円 中学生以下無料 団体 (20人以上 1人：160円)
- 問い合わせ ☎ 62-4655 fax62-4324



石川県海洋漁業科学館
うみとさかなの科学館長
白田 光司さん

Q この施設のいいところは？
スタッフがこの施設を利用する子どもたちの面倒をよくみてくれることですね。工作教室の様子などを見ていると、自由な発想で取り組んでいる子どもたちが本当に明るく楽しそうなんです。科学館には大人の方でも楽しめる教室もたくさんありますので、みなさんにご利用していただきたいですね。

びんの分別を徹底してください。



能登町の分別はランク外と評価されました。このままでは、リサイクル品として引き取ってもらえなくなり、処理できなくなります。

問題外のランク外

先日、奥能登クリーンセンターにおいてガラスびんリサイクル協会による「びんの抜取検査」が行われました。その結果、異物(スポンジ・たばこなど)混入によりランク外と評価されました。

半年後の再検査でもう一度ランク外と評価されるとリサイクル品として引き取ってもらえなくなり、どこにも処理できなくなってしまうです。

回収ガラスびんの抜取検査は、びん250kgに含まれる異物の量を採取し判定されます。品質ランクはAランクとBランクがあり、それ以外は引き取りをしてもらえません。

少ない意識と知識

「自分一人くらい分別しなくても大丈夫」という軽い気持ちや分別に対する知識のなさ、町民すべてに影響を及ぼすことになりません。

もう一度、分別についてよく考えてみてください。町民みんなの努力で、次の検査では、必ずランクAに判定されるように周りに声をかけ合ってください。

びんの分別 これを徹底！

●空きびんは飲料・食料用のびんだけ

人が口にできないものが入っていたびんは埋立ごみです。

●キャップ類は取る

キャップ・王冠・リングは素材に応じてもやせるごみ、埋立ごみに出してください。

●必ず中をゆすぐ

無色透明・茶色・その他の色に分けて出してください。

●色の分別をきちんとする

※無色透明かその他の色が迷う場合はその他の色へ入れてください。

●びん以外のものを混ぜない

異物(泥やたばこなど)が混入した汚れたびん、耐熱ガラスなどは埋立ごみです。

(問い合わせ) 環境対策課

潤いのある暮らしを支える 快適な町へ

能登町の地域再生計画が国の認定を受けました

構造改革特区計画と地域再生計画に関する認定書授与式が4月18日、東京の首相官邸で行われました。

ここで能登町の「潤いある暮らしを支える快適な町」再生計画が国の認定を受け、小泉首相から持木町長へ認定書が授与されました。この再生計画が認められたことにより、汚水処理施設整備交付金を受けることが決定しました。この交付金を活用して、公共下水道の恋路処理区と合併処理浄化槽の整備を推進していく計画にしています。



首相官邸での授与式に出席した持木町長

学舎が生まれ変わる日

▶関係者らが見守る中「こぶし」の銘板を掲げる持木町長



宮地小学校の旧校舎を利用して整備が進められていた「宮地交流宿泊所こぶし」の完成式が4月20日に行われ、地元住民や関係者など150人が出席しました。この施設の1階にはロビーや食堂、研修室などがあり、2階には浴室トイレつきの宿泊室が全部で10室完備されていて、主に都市部からの滞在型の自然・文化交流の場として利用されることになっています。

この地区の有志23人で構成され施設の管理運営をすることになったNPO法人「こぶし」の篠原理事長は「地元の伝統的な技術などを受け継ぐ交流の場にしていきたい」と話しました。

スポーツで強く優しい心を

▶グラウンドゴルフは微妙なタッチが勝負のわかれどころだよ！



能登町スポーツ少年団の結団式が4月23日、内浦総合運動公園おおい広場で行われ、26団体から団員や保護者、指導者など約400人が参加しました。式では団員を代表して藤田真希さん（内浦空手・松波小5年）、池崎万穂さん（宇出津卓球・宇出津小6年）、坂下こはるさん（柳田剣道・柳田小6年）が今年1年間の活動に対する誓いの言葉を述べました。

その後、団員たちは公園内の4会場に分かれてグラウンドゴルフやソフトバレーなどのスポーツで交流を深めました。最後に参加者全員で協力して公園内のゴミ拾いを行い、使った会場をきれいにしました。

捕鯨調査船が日本海にやってきた！

鯨フェスティバル in 金沢が4月29日・30日、金沢港で開催されました。このイベントは鯨の食文化が色濃く残る能登町と、県や金沢市などが鯨類捕獲調査船団を誘致して実現したもので、日本海側に寄港したのは今回が初めてです。

開会式で持木町長は、能登町が古くから鯨と関わりがあったことを紹介しました。その後、調査船団が一般公開され、鯨汁が無料で振る舞われました。また能登町のテナント出店者など50人も会場へ出向き、深層水商品やブルーベリーワイン、いしりブランド商品などの販売や、観光パンフレットなどを配布して会場に訪れた37,000人にわが町をPRしました。

▶能登町の特産品を味見



▶調査船団一般公開のテップカットに出席した持木町長

とも旗に込める大漁の願い

▶海上パレードで祭りは最高潮に！



小木地区、御舟神社の春祭り「とも旗祭り」が5月2日・3日、県文化財指定後、初めて行われました。今年1年の豊漁と航海の安全を祈願するこの祭り。高さ20メートル、幅2メートルのとも旗10本は各町内ごとに制作され、旗に大きく画かれた五文字にはさまざまな願いが込められています。

本祭りとなる3日午前7時、とも旗船10隻が九十九湾の蓬来島周辺を巡航します。午後には神輿をのせた御座船を先頭に10隻のとも旗船がつながれ小木港内を周回し、一番の見どころとなります。湾内には太鼓や笛の音、訪れた観光客らの歓声などが響き渡りました。

▶2日夜には電飾されたとも旗も



赤米・黒米・緑米！

▶ちゃんと叩いたところに植えてる？



縄文真脇遺跡体験村で5月15日、真脇小学校の4・5・6年生24人と、小木小学校の5・6年生46人の児童たちが古代米の田植えに挑戦しました。

古代米とは稲の原種である野生稲の特徴を受け継いでいる米のことです。この日は3種類の苗が準備され、真脇小のみんなが赤米を、小木小の6年生が黒米を、5年生が緑米をそれぞれ植えつけました。初めて体験した小木小の児童たちも、田んぼの感触に悪戦苦闘しながらも楽しそうに作業をしていました。児童たちは稲刈りも体験する予定になっています。大きく元気に育った古代米を収穫できるといいですね。

活用してね！まほろば文庫

▶図書館の一角に設けられた、まほろば文庫コーナー



まほろば成人式実行委員会が今年1月「未来を担う子どもたちのために役立てて欲しい」と町に寄付した210,100円により、宇出津の中央図書館にまほろば文庫が新設されました。館内に置かれた真新しい本棚には新刊140冊が並び、5月より貸出しを開始しました。学校の教科書に紹介されている本のほか、絵本、児童文学、親子で楽しめる読み聞かせ用大型絵本などがそろえられています。

町出身者で50歳を祝う「まほろば成人式」に出席したみなさんからの善意が形となり、子どもたちが手にとって楽しめる空間が誕生しました。

赤崎のイチゴは甘さが違う！



▶わたしのイチゴとお母さんのイチゴ、どっちが大きいかな？

甘くて美味しい赤崎いちご園のいちご狩りが5月下旬に最盛期を迎え、県内外からのたくさんの観光客で賑わいました。今年は厳しかった冬の影響が、例年より1週間から10日前後収穫のピークが遅れましたが、週末には家族連れなどが真っ赤に実ったいちごを味わいました。

また晴天に恵まれた5月20日・21日の両日、赤崎海岸休憩場でイベント「莓一会(いちごいちえ)」が開催され、約1,500人が訪れました。会場では地元の特産品などがずらりと並び、いちごミルクが無料で振る舞われました。

今年訪ねた「のとキリシマ」

- ① 藪さんの「のとキリシマ」
[恋路]
恋路のバス停から徒歩1分 家の前庭
- ② 背戸さんの「のとキリシマ」
[秋吉]
あまめはぎ公園近く 家の裏庭
町天然記念物
- ③ 蔵屋さんの「のとキリシマ」
[秋吉]
あまめはぎ公園近く 家の前庭
- ④ 芦田さんの「のとキリシマ」
[中斉]
旧中斉小学校近く 家の前庭
横にはミズバショウ群生地あり
町天然記念物
- ⑤ 平さんの「のとキリシマ」
[重年]
JA おおぞら低温倉庫横 家の前庭
町天然記念物
- ⑥ 酒井さんの「のとキリシマ」
[五十里]
五十里橋近く 家の前庭
町天然記念物
- ⑦ 久保さんの「のとキリシマ」
[神道]
国道249号沿い 家の前庭
- ⑧ 日吉神社の「のとキリシマ」
[神道]
国道249号沿い 日吉神社鳥居前
- ⑨ 大屋さんの「のとキリシマ」
[武連]
武連白山神社近く 家の前庭
- ⑩ 多田さんの「のとキリシマ」
[宮地]
宮地白山神社入る 民宿の前庭

※町天然記念物の「のとキリシマ」は他に笹川の山口さん所有のキリシマがあります。



神道の日吉神社にある「のとキリシマ」は、2株が寄り添って1株のように見えています。



これは、五十里の酒井さん所有の「のとキリシマ」で、天然記念物です。花は紅紫色をしていて、キリシマの垂種の多さを感じさせます。花が紅紫色の古木は珍しいのではないのでしょうか。



武連の大屋さんの庭先に咲く「のとキリシマ」は3株が寄り添っています。毎年山菜狩りなどのキリシマを見るのを楽しみにしている人がたくさんいるそうです。



酒井さんの庭先には他にも3株の古木があり、その景観は見事の一言です。



宮地の多田さん所有の「のとキリシマ」も満開でした。新緑のグリーンを背景にする紅色のキリシマツツジは絵になります。



能都地区の瑞穂へ
神道の久保さん所有の「のとキリシマ」はちょうど満開でした。キリシマは半日違えばその表情が違うといわれるほど繊細な花で、最高の状態はなかなか写真に写せません。



多田家のおばあちゃんは「世話が大変やけど、楽しみに見に来てくれる人もおるしねえ」と話をしてくれました。



満開の「のとキリシマ」は、枝・葉を覆い隠し紅色一色に染まります。

能登町各所で咲き誇る「のとキリシマ」の今年の咲き具合はどうだろうか？大雪や低温の影響を心配しながら車に乗り込みました。恋路から武連まで、走行距離約100km。古木の巨大さに、花の紅色に圧倒され、改めて「のとキリシマ」の魅力を感じた1日となりました。

所要時間6時間。代表的な古木を中心に、のとキリシマ探訪！

町花 のとキリシマ を見てきました。

能登町の花「のとキリシマ」。5月になると、樹齢100年以上の古木や愛好家の手によって手入れされた見事な盆栽が、庭先で競うように咲き誇ります。5月の半ば、車を走らせ「のとキリシマ」に会いに行きました。



能登町花
のとキリシマ
めぐり
平成18年版



内浦地区から柳田地区へ
柳田地区には天然記念物に指定されたキリシマが4株あります。これは中斉の芦田さん所有の「のとキリシマ」。芦田さんはキリシマを保護するために移動式ガレージを整備しています。



のとキリシマの花は一重のものが多いですが「がく」の部分が花びら化して二重に見えるものやコシミノに見えるものなど多様です。蝶や蜂などたくさんの昆虫もやってきます。



芦田さんのキリシマの花は二重です。ガレージがあるため雪の被害もなく、とても元気そうに見えました。



次に向かったのは、町の天然記念物にも指定されている秋吉の背戸さんの「のとキリシマ」。残念ながら大雪の影響で花は少なめでしたが、南北6.7mに枝を広げるその大きさは能登町で最も大きいと思われます。来年に期待！



のとキリシマツツジ連絡協議会が平成16年に制作した「のとキリシマツツジ探訪マップ」で能登町の代表的なキリシマをチェックしてから出発。



重年の平さん所有の「のとキリシマ」も町の天然記念物に指定されています。他のキリシマに比べて縦に勢いよく伸びている感じがします。



同じく秋吉の蔵屋さん所有の「のとキリシマ」。約150m離れた背戸さんのキリシマより、毎年ぴったり2日早く開花するそうです。



まずは内浦地区の恋路へ
恋路の藪さんが所有する「のとキリシマ」は恋路のバス停から徒歩1分の場所にありました。高さ約3m、幅約4mの大きさと、広い庭の中央に深紅に咲き誇る存在感に圧倒されました。